

令和3年度 こひつじ事業報告



社会福祉法人 初穂会

-目次-

1	令和3年度 社会福祉法人 初穂会 事業報告概要	- 1
2	令和3年度 事業実績報告	- 3
3	令和3年度 各部門実績報告	
3-1	介護部門	- 5
3-2	医務部門	- 6
3-3	生活相談員部門	- 8
3-4	介護支援専門員部門	- 9
3-5	栄養部門	- 10
3-6	短期入所生活介護部門	- 15
3-7	介護予防通所介護・通所介護部門	- 20
3-8	居宅介護支援部門	- 25
3-9	ボランティア部門	- 27
3-10	機能訓練部門	- 27
3-11	事務部門	- 28
3-12	教育研修部門	- 30
4	各委員会実績報告	
4-1	安全対策委員会	- 32
4-2	衛生委員会	- 33
4-3	褥瘡対策委員会	- 34
4-4	防災委員会	- 36
4-5	食中毒蔓延防止・感染対策委員会	- 37
4-6	広報行事委員会	- 39
4-7	拘束廃止・虐待防止委員会	- 40
4-8	排泄支援委員会	- 41
4-9	入浴委員会	- 42
5	地域福祉部門	- 41
6	ほっとスペース 稲毛ペコリーノ	- 44

令和3年度社会福祉法人初穂会事業報告概要

令和3年度は、昨年同様新型コロナウイルス感染対策を中心に施設内での取り組みとなった。特にオミクロン株の発症で入居者様の陽性者はなかったが職員、職員ご家族が陽性者となり、事業休止となることがありました。特に外部との接触が多いデイサービス事業は1月に1週間の休止となった。ただ早急の対応により大規模な感染(クラスター)とはならず利用者、職員も守ることが出来た。昨年度はワクチン接種3回を利用者様職員を行い週1回のPCR検査で早期対応に努めることが出来た

新規入所者との面談も感染対応に伴い思うように進まずまた、入所者重度化にて退所者が多く空室がある状況が続いた。稼働率も93%で目標には届かず新規入所者32名退所者は34名であった。施設内での行事は縁日、秋祭りなど地域との交流場あるが中止せざるを得ない状況であった。下半期では新型コロナウイルス感染対応しながら小規模でも開催する方向で進み敬老会、年末の餅つきは実施し好評であった。その中で近隣台地(あやめ台団地)でのあやめ祭りに出店依頼があり協働で行うことができた。新しい取り組みも始め子供会との芋掘り、地域(稲家まちスポ)との壁画作業、あざみ自治会フードライブ開催と感染対応を取りながら活動は広がりをみせています。令和4年度は地域のお祭り、買い物支援(巡回型、イオン、自治会協力のもと)やフードバンク活動、農副連携など昨年度以上に広げていきたいと思えます。

介護部門は、外国人、未経験者採用していき文化の理解、細かい指導が出来て介護人材不足解消に努めていけており今年度は常勤職員の退職はほとんどおらず現職員でケアのあたる事が出来た。令和4年度は、コロナの影響で1年入国が遅れた技能実習生、千葉県留学生受け入れマッチングで7名受け入れし介護人材の安定をはかりたい。3年度はフードバンク活動の関係で職員2名採用する事が出来て今後も輪を広げていきたい。

また、地域福祉として今まで取り組んできた地域カフェ、こども食堂に続き千葉県社会福祉協議会と連携し買い物支援は新型コロナウイルス感染対応のため中止となりましたが、フードバンク活動で他の子供食堂を応援することで千葉県子ども食堂ネットワークを確立することが出来た。今後も地域住民や生活困窮者の支援を継続し職員採用にもつなげていき地元自治会、八街市社会福祉協議会、城西国際大学、淑徳大学、千葉大学とフードバンクの提携を結び輪を広げていきます。

介護人材不足は稲毛ペコリーノ活用した職員獲得、学校訪問での新卒採用、引き続き外国人採用(技能実習、専門学校)推進していき教育研修室中心に新入職員、施設内研修にてケアに対する知識向上に努め安定した施設運営を目指す。また、専門学校、日本語学校に訪問し学生アルバイト、卒業生の声掛け職場説明会、見学会を実施し人材を確保していく

令和4年度も新型コロナウイルス感染拡大がある中で、適宜PCR検査、ワクチン接種を円滑に進めていき4月以降も感染委員会中心に予防につとめていく

社会福祉法人初穂会 理念

“生きる力の輝きを称え共に歩んでいきます”

高齢者や障害者を含む地域の全ての人々が互いに助け合い大切さにされ、自分らしく生活できる“時間と空間作り”を通して笑顔と思いやりに満ちた社会の実現を目指します。

基本方針

- 1 利用者一人ひとりにあった暮らしの支援
- 2 利用者の思いの尊重
- 3 地域と共に築く施設
- 4 利用者と共に共感出来る職員
- 5 利用者の信頼に応える人材育成

令和3年重点目標

- ① 新型コロナウイルス感染対応の継続、自然災害リスク対策を進める
⇒オミクロン株にて職員、家族の陽性者が発症したがクラスターはなく利用者発症は0
- ② 人材確保、技能実習生受け入れにより職員窓口拡大に努める
⇒技能実習生の受け入れは新型コロナウイルス感染対応のため入国が延期になり令和4年度受け入れとなる
- ③ 一人一人尊厳を保ち個々の状況に応じたケアの提供
⇒日々の感染対応の中でユニット内での個々の対応が出来ていた(ご家族の面会出来ずにストレスを抱えている入所者が多かった)
- ④ 地域、医療との連携 地域に根付いた施設運営
⇒地域カフェ、こども食堂、買い物支援は新型コロナウイルス感染予防にて開催出来ず、フードバンク活動、障害者施設、フリースクール、子ども会との農福連携が進んでいく。
他のこども食堂をフードバンクで応援していくため千葉市子ども食堂ネットワークの形成し連携していく
- ⑤ 法人運営の自律性及び継続確保のため、新規事業開設調査検討を行う
⇒公募に注視していき事業拡大を目指す

2 令和3年度 事業実績報告

<稼働率>

() 内は2020年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	2481 (2497)	91.9 (92.5)	92.6 (92.5)
5月	2520 (2584)	90.3 (92.6)	91.1 (92.6)
6月	2530 (2525)	93.7 (93.5)	92.0 (92.9)
7月	2587 (2673)	92.7 (95.8)	92.1 (93.6)
8月	2660 (2696)	95.3 (96.6)	92.8 (94.2)
9月	2598 (2526)	96.2 (93.6)	93.4 (94.1)
10月	2688 (2656)	96.3 (95.2)	93.8 (94.3)
11月	2579 (2525)	95.5 (93.5)	94.0 (94.2)
12月	2524 (2548)	90.5 (91.3)	93.6 (93.9)
1月	2637 (2516)	94.5 (90.2)	93.7 (93.5)
2月	2302 (2254)	91.3 (89.5)	93.5 (93.1)
3月	2534 (2541)	90.8 (91.1)	93.3 (93.0)
計	30,640 (30,541)		

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
新規入所者数	5名	3名	3名	2名	4名	2名
退所者数	4名	3名	2名	4名	1名	1名

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
新規入所者数	0名	5名	3名	0名	2名	3名
退所者数	3名	2名	4名	0名	5名	5名

※令和3年4月～令和4年3月

(新規入所数)32名 (退所者数)34名

<短期入所稼働率>

()内は令和 2年度

	実績	稼働率	累計 稼働率
4月	569 (459)	105.4 (85.0)	105.3 (91.7)
5月	545 (506)	97.7 (90.7)	101.5 (91.2)
6月	537 (534)	99.4 (98.9)	100.5 (95.1)
7月	558 (545)	100.0 (97.7)	100.3 (96.4)
8月	542 (544)	97.1 (97.5)	98.7 (97.0)
9月	525 (533)	97.2 (98.7)	98.0 (97.9)
10月	558 (549)	100.0 (98.4)	99.0 (98.2)
11月	540 (515)	100.0 (95.4)	99.5 (96.8)
12月	537 (589)	96.2 (105.6)	97.9 (101.2)
1月	485 (558)	86.9 (100.0)	92.4 (100.6)
2月	498 (531)	98.8 (105.4)	95.6 (103.0)
3月	589 (598)	105.6 (107.2)	100.6 (105.1)
計	6,483 (6,461)	98.7 (98.4)	99.1 (97.9)

居宅介護支援稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実績	75	72	67	66	68	70	65	65	70	74	68	67	827
稼働率	95.5	91.7	85.8	84.0	86.5	84.7	82.7	83.3	89.7	94.9	86.5	85.9	86.5

3 令和3年度 各部門実績報告

3-1 介護部門

【目標】

1. 利用者様に対する接遇マナーの向上
2. 多職種連携を強化し、利用者様の充実した日常生活の構築
3. 介護、医療知識を習得でき、希望、熱意を持った人材の育成
4. 当施設を地域づくりの拠点へ

【具体的方策】

- 1)利用者様やご家族、そして介護者も交えて心地よい環境を作り出し、個人の成長だけでなく組織として利用者様やご家族から強い信頼を寄せられる施設を目指す
- 2)施設は利用者様の生活の場であることを念頭に、集団生活への調和と安全性に配慮しながら、生活に楽しみを見出せるよう個別の対応
- 3)サービスの質の向上
- 4)行事等を通して地域との連携を図り、当園が中心となり地域を元気にできる試みを企画する

評価

1. 利用者様に対する接遇マナーの向上
コロナウィルス対策にて職員が集まっての研修は行わず、メディパスを活用した。
残念ながら履修率は高いとは言えず、職員への教育・研修については見直しとなる。
昨年末より外部研修も開催され始め、6名の参加があった。
2. 多職種連携を強化し、利用者様の充実した日常生活の構築
コロナウィルス対策にて面会の禁止や外部業者、訪問歯科、訪問理容等の制限もあったが、ニーズに沿ったケアプラン作成、支援の提供をするため各職種がサービス担当者会議を書面での会議、話し合いを中心に行えた。
オンライン面会、ベランダ面会の実施出来た。
3. 介護、医療知識を習得でき、希望、熱意を持った人材の育成
繰り返しシュミレーションを行い、感染対応をとんでも慌てることなく対応が出来た。感染症対策に対する知識を各職員が深める事ができた。
4. 当施設を地域づくりの拠点へ
コロナウィルス感染対策の為、季節行事の開催や地域住民の参加を呼び掛けたの納涼祭、文化祭は開催出来なかったが、フードバンク活動に力を入れた。

3-2 医務部門

【目標】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める
- II. 介護、医療連携の充実を図る
- III. 職員の健康増進
- IV. 地域に根ざした稲毛こひつじ園の構築
- V. 新型コロナウイルス感染防止の徹底

【施策・評価】

- I. 入居者様が心身共に、日々穏やかに過ごせるよう努める。
 - 1. 午前・午後と各ユニットを巡視し、介護職員から情報伝達を受け、入居者様の異常の早期発見に努めた。また、入居者様へ積極的に声をかけ、状態の観察に努めた。
 - 2. 介護職員・相談員・栄養士・機能訓練士との連携を図り、入居者様が日々穏やかに過ごせるよう情報伝達・情報共有に努めた。
 - 3. 回診時、囑託医へ情報を伝達。また、内服薬や状態の相談を実施し入居者様の健康管理に努めた。
 - 4. 内服薬の管理では、医務職員間でのダブルチェックを徹底。配薬忘れ・誤薬事故の防止に努めた。
- II. 介護、医療連携の充実を図る
 - 1. 介護職員との連携として、口頭での情報伝達のほか、連絡ファイルを活用し情報共有に努めた。
 - 2. 医療連携として、入居者様の受診先医療機関へ、受診依頼書や診療情報提供書・温度板を提出。
情報伝達に努めた。また、早めの受診対応を心がけ重症化防止に努めた。
- III. 職員の健康増進
 - 1. 新型コロナウイルス流行により職員の健康管理の徹底し感染防止に努めた
結果陽性者なし、今後も職員とのコミュニケーションの充実・毎週の抗原検査施行、体調不良者の悪化を未然に防ぐように努めた。
- IV. 地域に根ざしたこひつじ園の構築
 - 1. 地域との関わりはイベントの機会のみであったが新型コロナウイルスの影響でイベント、地域カフェ等が中止になっている、本年度も中止とした
 - 2. このコロナ渦で家族との連絡は相談員を通して行っていたが、高齢化していく家族との連携の難しさを感じるが多々あった。継続して実施し、更なる関係向上に努めていく。

医療 令和3年度 年間集計表

	内科	皮膚科	施設内 合計	受診 付き添い	外部受診	オンコール	救急搬送	入院	カンファレンス	看取り
4月	138		138	55	2	0	3	11	1	5
5月	88		88	48	6	2	7	12	1	6
6月	92		92	66	8	5	0	11	2	7
7月	32		32	61	2	8	2	8	4	8
8月	62		62	48	4	4	2	8	5	8
9月	111		111	46	5	4	2	9	7	4
10月	89		89	61	4	4	2	4	7	10
11月	81		81	65	4	3	5	10	7	11
12月	184		184	67	5	3	7	12	5	8
1月	38		38	56	5	4	4	10	2	9
2月	120		120	51	5	2	3	6	2	9
3月	91		91	59	10	8	2	7	4	10
合計	1126		1126	683	60	47	39	108	47	95

死亡退去者

	死亡日	氏名	年齢	死因	死亡確認場所	令和3年度看取り数	看取り総累計
1	令和3年4月7日	M	84	肺炎、心不全	千葉労災病院		57
2	令和3年5月20日	S	80	肺がん	青藤労災病院		
3	令和3年6月1日	M	93	老衰	稲毛こひつじ園	1	
4	令和3年6月11日	S	101	老衰	柏戸病院		69
5	令和3年7月5日	S	83	老衰	稲毛こひつじ園	1	70
6	令和3年7月13日	Y	99	心不全	千葉大学病院		
7	令和3年7月15日	A	93	脳出血	救急医療センター		
8	令和3年7月16日	O	95	老衰	稲毛こひつじ園	1	71
9	令和3年8月19日	W	98	老衰	みつわ台総合病院		
10	令和3年10月26日	Y	98	老衰	稲毛こひつじ園	1	72
11	令和3年10月26日	A	78	呼吸不全	みつわ台総合病院		
12	令和3年11月1日	S	102	老衰	稲毛こひつじ園	1	73
13	令和3年12月9日	I	90	肺炎	みつわ台総合病院		
14	令和3年12月17日	T	87	老衰	稲毛病院		74
15	令和4年2月2日	T	86	老衰	稲毛こひつじ園	1	75
16	令和4年2月7日	S	97	老衰	稲毛こひつじ園	1	76
17	令和4年2月7日	K	71	心不全	千葉大学病院		
18	令和4年2月8日	M	72	肺炎	みつわ台総合病院		77
19	令和4年3月17日	K	90	老衰	稲毛こひつじ園	1	78
20	令和4年3月25日	Y	99	老衰	稲毛こひつじ園	1	79
21	令和4年3月30日	I	92	老衰	稲毛こひつじ園	1	80

長期入院での退所者（施設復帰の不可のため退所）その他

	退所日	氏名	年齢	病名	状況
1	令和3年4月24日	A	80	腹膜炎	退院困難にて退所となる。
2	令和3年5月19日	T	86	慢性硬膜下腫	退院困難にて退所となる。
3	令和3年6月11日	I	95	肺炎	退院困難にて退所となる。
4	令和3年9月13日	T	92	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
5	令和3年10月29日	K	98	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
6	令和3年12月7日	M	83	腎う腎炎	退院困難にて退所となる。
7	令和3年12月8日	I	93	呼吸不安定	退院困難にて退所となる。
8	令和4年2月9日	H	92	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。
9	令和4年3月15日	M	85	創部悪化	退院困難にて退所となる。
10	令和4年3月17日	K	80	経口摂取困難	退院困難にて退所となる。

入院先病院	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稲毛病院	3	3		3	1	1		3	3		2	1	20
高洲訪問クリニック													0
四街道徳洲会病院					1					1	1	1	4
みつわ台総合病院	1	3		2	2	2	1	2	3	6	3	3	28
千葉メディカルセンター	1			1	2	3	2	1					10
千葉医療センター	1							2	2	1		1	7
海浜病院		1									1	1	3
千葉中央メディカルセンター	1	1		1			1	1	1				6
柏戸病院		2			1	1							4
千葉脳神経外科	1												1
救急医療センター	1			1									2
成田国際福祉大学											1		1
青葉病院	1							1	2	1			5
中村古峽記念病院													
青藤労災病院	1	1											2

3 - 3 生活相談員部門

【 目 標 】

- I. 特養稼働率95%以上の達成
- II. 地域との連携を深め、地域に根差した施設となれるよう努める

【 施策、評価 】

- I. 目標稼働率の達成に向けた取り組み
 - ・令和3年度の平均稼働率は93.3%となり、目標稼働率の達成は果たせなかった。
要因として考えられる事は入院期間の長期化や療養型病床への転院が多かった。
昨年度同様、医務の人員不足により医療ニーズが高いご利用者の退院時の受け入れ
新規入所者の受け入れが難しい事も影響した。
 - ・昨年同様、今年度も看取りでの退所者が多かった。
 - ・特養空床発生時、ショートステイの有効活用を行い入所に繋げるなどの連携があまり
出来なかった。
 - ・必要時は入居者の居室変更をし、バランスの良いユニット編成をおこなった。
- II. 地域との協力体制を構築し、地域のニーズをくみ取り施設運営に反映していく
 - ① フードバンクなどを通して地域施設やひとり親家庭の支援する企画を実施した。
 - ② 必要に応じた各種福祉サービス、社会資源の把握・紹介を行った。
 - ③ 稲毛ペコリーノとの連携を強め、法人事業の情報発信を行った。

3 - 4 介護支援専門員部門

1. 情報収集による生活課題の明確化

日常的にユニット巡回をおこない、ご利用者や各部署の職員とコミュニケーションを図り情報収集することができた。

また、毎朝の医務、栄養課との合同申し送りにも参加することでご利用者の日頃の状態や食事状況などを詳細に把握し、ご家族等への情報提供に反映することができた。

2. 支援内容、生活の質向上に向けた取り組み

各部署と利用者の状態に合わせたカンファレンスを適宜実施することで課題の掘り起こしに繋がった。また、より詳細な情報をご家族へ提示できるよう日頃からのワイズマンへの入力、相談記録への記載内容の徹底を図ることができた。

ご家族からの記録提供のご要望があった場合は速やかに情報提供を行うことで、ご理解を得て頂くことができた。

ご利用者の身体機能の維持・向上を図る目的からも機能訓練士の意見を踏まえながら各部署の意見を集約し、必要な福祉用具の導入をご家族へ相談。ご理解を得たうえで導入し生活の質向上に繋がることことができた。

3. ご利用者の健康管理、医療機関との連携

嘱託医の回診に同行することでご利用者の健康管理に務めることができた。できた。

また、ご利用者の健康状態を随時ご家族へ報告し、ご家族からの要望などを嘱託医や外部医療機関へ情報提供し柔軟な意見を集約することができた。

看取りに関しては、事前にご家族の意向をしっかりと確認した上で嘱託医の看取り診断を受け、看取り指針・ケアプランの説明をご家族に行い定期的なカンファレンスも実施した。看取りカンファレンスについては、7~10日又は必要に応じて開催し、幾度もご家族の意向を確認しつつ、各部署と情報を共有し連携を図る事ができた。

ケアプランの立案数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
通常	14	17	15	20	27	14	11	19	16	18	17	15	203
看取り	0	1	1	4	1	0	1	1	1	0	2	3	15

3-5 栄養部門




















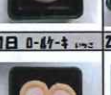









I. 目標

- 1、視覚・味覚から季節を感じ、楽しみにしていただける食事の提供。
- 2、ご利用者様・ご入居者様、おひとりおひとりの身体状況・摂取状況に合わせた食事内容・食事形態・食事量の提案・提供。
- 3、ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わう楽しみを継続できる経口維持支援体制の強化。
- 4、即座に感染対応できる体制整備。

II. 具体的対策

- 1、視覚・味覚から季節を感じ、楽しみにしていただける食事の提供
 - 1) 各部署との意見交換が出来る機会の設定
⇒月1回、給食運営会議を開催した。感染対応中は各部署・ユニットから文書で意見を募り、問題提議・改善策を検討した。
 - 2) 選択する喜びを感じていただける機会の設定
⇒昼食時、デイサービス・ショートステイを対象に主菜セレクト（2種類からお選びいただく）や主食セレクト（白米・パン）を継続した。
 - 3) ユニットやデイサービスの特色を活かしたレクリエーション実施のサポート
⇒ユニット・デイサービスとの連携を図り、感染対応時を除き食に関するレクリエーション（特におやつ関連）を実施した。細菌検査の実施、保存食管理を行った。

10月 おやつ

31日 きな粉フリン							1日 吹雪饅頭	2日 しつ-ケーキ
								
3日 かん-ケーキ	4日 どん-ケーキ	5日 かん-ケーキ	6日 今川焼	7日 エクレア	8日 かん-ケーキ	9日 黒糖饅頭		
								
10日 アイス	11日 ココア-ケーキ	12日 揚げド-ケーキ	13日 しつ-ケーキ	14日 あん-まん	15日 抹茶ケーキ	16日 たこ焼き		
								
17日 かん-ケーキ	18日 ド-ケーキ	19日 フリン	20日 麻婆ドッグ	21日 かん-ケーキ	22日 カステラ	23日 かん-ケーキ		
								
24日 アイス	25日 かん-ケーキ	26日 チョコパイ	27日 ようかん	28日 どん-ケーキ	29日	30日		
								

- 4) 年1回以上、ご入居者様を対象とした嗜好調査の実施
⇒2月14日～19日に入居様対象に実施した。感染対応の為、各ユニット職員に聞き取りを依頼した。集計結果は、3月給食運営会議後、各部署・ユニット・委託業者に配布した。
- 5) 月1回イベント食を設定し、季節感を味わえる食事の提供
⇒四季折々の食材を使用した季節感のある食事提供を行った。委託業者のご協力のもと、郷土料理やおやつバイキングなどイベント的に行う機会も設けた。



こひつじ米の田植え

特養等稲毛こひつじ園食事で使用しているこひつじ園ブランドこひつじ米の田植えうえを令和3年5月参加いたしました。稲毛こひつじ園から 施設長・こひつじ生物部部員那須職員が参加、ドローンを飛ばしながら田植えの撮影を行いました。おいしいお米ができるようみんなで記念撮影。





- 6) 松花堂弁当箱など普段と違う弁当箱・食器を使用する
⇒イベント食を中心に盛り付けを工夫した。

4月 パン食・クリームシチュー



7月 土用の丑の日 鰻蒲焼



8月 冷やし中華



9月 敬老の日 赤飯



1月 元旦 まぐろ刺身・おせち



2月 節分 恵方巻き



- 1、 ご利用者様・ご入居者様、おひとりおひとりの身体状況・摂取状況に合わせた食事内容・食事形態・食事量の提供。
 - 1) 昨年度に行った当園の栄養基準・食種に基づいて食事を提供する。
⇒各ご利用者様・ご入居様の現状把握を行い、各職種と共に食事内容を検討・提供した。
 - 2) 日々のミールラウンドにて、ご利用者様・ご入居者様の身体状況・食事摂取状況の把握を行い、必要に応じて食事内容の検討を関連部署とを行い、栄養ケア計画を見直していく。
⇒各職種と情報共有・意見交換を行い、栄養ケア計画を見直した。
 - 3) ご入居者様に対し、月1回以上の栄養評価を行い、低栄養リスクに応じた期間でのモニタリングを実施する。低栄養状態・低栄養のリスクの高いご入居様においては早期に対応策の検討・栄養介入を行い、悪化防止や改善にむけての栄養ケアマネジメントに努める。
⇒体重測定にあわせて平均食事摂取量を割り出し、各職種の意見を求め栄養ケアマネジメントに努めた。
 - 4) 褥瘡対策委員会にて、他部署との情報共有を行い、褥瘡の改善・予防に取り組んでいく。
⇒入居様全員のリスク判定項目一覧・高リスク者の体重推移や食事摂取量

を各部署に情報提供し、褥瘡対策・改善に取り組んだ。

- 5) 外部の研修会や講習会へ参加し、専門職としての質の向上と日々変わりゆく栄養に関する情報や知識の習得に努め、ご利用者様・ご入居者様の栄養ケアマネジメントへ反映させる。

⇒今年度は、感染防止の為参加できなかった。

- 2、ご入居者様が最期の時まで自らの口で味わう楽しみを継続できる経口維持支援体制の強化。

- 1) ご入居者様を対象にスクリーニングを行い、摂食嚥下障害及び誤嚥のリスクが高いご入居者様を選定する。

⇒今年度は新規7名選定した。体制のもと安全に食事が出来ている。

- 2) 医師の指示のもと、経口維持支援の対象となったご入居者様を対象に介護職員・生活相談員・機能訓練士・看護師・管理栄養士等による多職種での食事観察・経口維持会議を開催し、経口維持計画書を作成する。また状態の変化に合わせて、適宜、計画書の見直しを行う。

⇒それぞれの専門的な意見をまとめ食事摂取の維持・食事量の改善を支援した。

- 4、即座に感染対応できる体制を整える。

- 1) 感染委員会に参加し、最新の感染対応のマニュアルを確認する。

⇒栄養部門での感染対応をその都度見直し、現実的な対応を実施した。

また、その内容を周知できるよう各部署に配信した。

- 2) 給食委託業者に情報共有し感染対応が実践できるように準備をする。

⇒栄養部門での感染対応を見直す際、委託業者の意見を取り入れ改善した。

意見の相違がなく、周知できるよう文書を作成した。

- 3) 物品不足や動線停滞が起きないように、必要に応じてシミュレーションを実施する。

⇒感染対応中も物品不足にならないよう、在庫表を作成して在庫確認を定期的に行った。

備蓄品リスト

※主食100食×3日分 主菜等400食×3日分 水100食×1日分

青字:倉庫 赤字:食品庫

※主食100食×3日分 主菜等400食×3日分 水100食×1日分

品名	単位	期限	備考
保存水	2L×35本	2022/06/26	白米1ケースに水8ℓ 粥1ケースに水10ℓ必要(1日32ℓ+20ℓ) 1日に2ℓ×6本×5ケース必要(1日2ℓ×26本)
	2L×6本入り×3ケース	2022/06/26	
炊き出し白米セット(50食)	5ケース(250食分)	2022/08/31	1回に2ケース(100人):1日2食として1日4ケース必要
	3ケース(150食分)	2022/09/30	
炊き出し粥セット(50食)	3ケース(150食分)	2022/04/30	1回に1ケース(50人):1日2食として1日2ケース必要
	1ケース(50食分)	2022/12/31	
”(1食分)	バラ150食分(50食×3ケース分)	2022/08/31	1食分の水203ml 150食分の水:2ℓ×6本×3ケース必要
●ミニふりかけ(しそ)	40個×3袋	2022/12/28	
●ミニふりかけ(たまご)	40個×3袋	2022/12/27	
●ミニふりかけ(カツオ)	40個×3袋	2022/12/26	
●ライトツナフレーク	1kg×4P	2023/07/23	
●かつおフレーク味付	450g×5P	2023/07/06	
●チキンそぼろ味付	900g×5P	2023/09/21	
●いわし蒲焼き	固形1400g×4缶	2024/09/28	
●さば味噌煮	固形1400g×4缶	2024/09/29	
●みかん缶	1号缶×3缶	2023/12/01	
●洋ナシ缶	1号缶×2缶	2023/10/25	
●フルーツカクテル缶	1号缶×3缶	2023/11/06	
●焼きとり(たれ)	65g×24缶 5箱	2024/09/09	
●焼きとり(塩)	65g×24缶 5箱	2024/09/28	
●1日分の野菜	190ml×30本×7箱	2024/08/31	
●野菜生活100オリジナル	190ml×30本×4箱	2023/09/30	
メイバランス mini アソートBox	125ml×24本×3箱	随時入れ替え	

令和4年3月31日 時点

3-5 短期入所生活部門

【 目 標 】

- I. 「自らが利用したい。家族を利用させたい。」と思えるような、利用者が安心して住み慣れた地域で生活できるよう個々のニーズにあった介護サービスを提供する。
- II. 心身ともにより生活しやすい環境を整え、利用者が安心して生活が送れるよう各部門や外部機関と連携し支援する。
- III. 常に利用ニーズを調査し、必要ニーズに対応した支援を行う。
- IV. 感染症拡大防対策を行う。

【 施策・評価 】

- I. 今年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止対策に伴い、面会の自粛や病院以外での外出をお控えいただき、少しでも出入りを少なくするため、受け入れもミドル又はロングショートのみとさせていただいた。また外出行事は勿論のこと。協力ユニット合同でのレクの実施も難しい期間があり、充実したレクを行うことが出来なかった。しかしながら、少しでもご利用者様に楽しんでいただけるよう外出できない分、外出した気分を味わっていただきたく昼食レクにて手作り洋食ランチや出前のお寿司等にて、いつもと違う雰囲気味わっていただくよう工夫したりした。また天候のいい時には毎日午前中の集団体操を実施後に外気浴を行っているが、午前中だけではなく午後も実施することでレクは苦手な参加されない方も外気浴は喜んで参加して下さる方もおり少しでも気分転換が出来ているのではないかと思われる。今後も個々の状況に応じた質の良いサービスを提供する為にも、毎日行っているレクを更に充実させ楽しんでいただけるよう工夫していきたい。
各担当ケアマネジャーとの連携を密にしている事で信頼関係ができ、各担当ケアマネジャーが所属する事業所内の他のケアマネジャーからの新規利用依頼の問い合わせも増えてきており、空室が出ても比較的早い段階で次の受け入れに繋ぐことができた。また、ご家族様とも密にコミュニケーションを図るように努めている為、今後についてのご相談もして下さるご家族様が増えてきている。将来的には『ここの特養に是非入所したい』と思っただけのよう活動していきたい。
- II. 施設内各部署との情報の共有化を図り連携を強化し、出来る限り緊急ショートを受け入れ対応も行うようにしていた。また昨年度より課題となっている特養との連携により空室利用に関しても、新型コロナ感染症拡大防止にあたり発熱者が出るとユニット内の感染対応が開始される為、入院者の居室ユニットで感染対応が開始されるとどうしても入院者の居室を繋いで利用することが難しくなったり、短期間でのご利用の受け入れを自粛している為、入院者の入院期間が短いと空床利用に繋げることが出来ない事実もあり、稼働率の向上が難しい状況がある。今後もいつまで続くか分からない、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に対し、感染に注意しながら受け入れられる方法を模索しなければならない時期に来ていると思われる。現在、短期間でのご利用を希望している方の問い合わせも増加してきている事もあり、必要ニーズに対応するためにも、施設側と慎重に協議し出来る限り受け入れられる体制を整えていきたい。
- III. 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、ミドル又はロングショートでの受け入れを継続したことで、入退所の動きがあまりなく比較的に一定の稼働率が保てていたが、やはり動きがある月で受け入れが決定しているにも関わらず、直前で施設自体が感染対応

に入ってしまう、受け入れを中止せざるを得ない状況だった月はかなり稼働率に影響してしまっ
た。また近隣に新設の施設が幾つも増えたことで、一時に比べ問い合わせも減少している事実
もあり、昨年度までに比べ特養の空室利用までつなげる事が難しい時期もあったが、最近では信
頼構築の出来ている事業所からの問い合わせも増えてきている為、少しずつ問い合わせ件数
も回復してきている。営業活動に関してもホームページへの空室状況の更新や各事業所への
直接的な営業活動も行うようにしているが、今後も引き続き営業活動を実施し新規利用者獲得
を目指していく。

- IV. 感染症拡大防止に関して新型コロナウイルスに罹患するケースはなかったが、昨年度同様
『通常疥癬』に罹患するケースが出てしまった。原因は不明ではあるが、
毎回、同じユニットから罹患している為、やはり疥癬の感染者がいない時にも予防策として定期
的なユニット内消毒や清掃を行い新型コロナウイルスだけではなく疥癬への感染防止のための
環境整備を行っていかなければならない。

今年度も全てにおいて新型コロナウイルスの影響で計画していたことが達成できな
かったことが多々あった。現在行える中で柔軟に対応するように努めたがそれぞれ課題
が残る結果となった。今後はどのように対応すれば更に柔軟な対応ができ、必要とされ
ているニーズにこたえる事が出来るかを検討して一つ一つ課題に対応していきたい。

<送迎エリア>

稲毛区 中央区 若葉区 花見川区 美浜区 緑区 の千葉市全域
四街道市

<送迎実施地域>

区	町
稲毛区	園生町 天台 穴川 柏台 小仲台 轟町
若葉区	若松町 みつわ台 桜木町
中央区	弁天
花見川区	
美浜区	真砂
緑区	
その他	

<要介護度別利用状況>

()内は令和 2年度

	男	女	計
要支援1			
要支援2			
要介護度1	0 (0)	0 (8)	0 (8)
要介護度2	0 (4)	2 (7)	2 (11)
要介護度3	4 (10)	15 (15)	19 (25)
要介護度4	4 (9)	5 (10)	9 (19)
要介護度5	0 (1)	0 (4)	0 (5)
計	8 (24)	22 (44)	30 (68)

<新規契約数>

()内は令和 2年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
男	0 (0)	1 (2)	0 (1)	0 (2)	1 (0)	0 (2)
女	0 (5)	0 (2)	1 (3)	0 (4)	0 (3)	0 (0)
計	0 (5)	1 (4)	1 (4)	0 (6)	1 (3)	0 (2)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	0 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)
女	0 (1)	1 (2)	0 (1)	2 (0)	1 (1)	0 (2)
計	0 (2)	1 (2)	0 (1)	3 (0)	2 (2)	0 (2)

<行事>

- 4月 おやつ作り (手作りチョコプリン)・花植えレク
- 5月 昼食作り (お蕎麦)
- 6月 ビンゴ大会
- 7月 昼食作り (洋食ランチ)
- 8月 花火大会
- 9月 敬老のお祝い
- 10月 おやつ作り (さつま芋の茶巾絞り)
- 11月 (感染対応につき中止)
- 12月 クリスマス・餅つき
- 1月 (感染対応中につき中止)
- 2月 節分の豆まき・おやつレク (フルーツパフェ)
- 3月 ひなまつり・昼食レク (出前寿司)

※ その他、毎日午前10：30～集団体操

午後14：00～・16：00～

塗り絵・脳トレドリル・かるた・百人一首・クイズ
体操・貼り絵等を実施。

3-7 介護予防通所介護・通所介護部門

【 目 標 】

1. ご利用者の思いを尊重した、個別化したケアの提供
2. 職員の資質向上（人を活かして育てる）
3. 近隣地域と連携し共に、築くデイサービス

【 事業概要 】

営 業 日 … 月曜日～土曜日(祭日含む) 1月1日～3日は休業
サービス提供時間 … 9：30～16：30
利 用 定 員 … 30名

【サービス内容】

送迎サービス・食事の提供・入浴・レクリエーション・生活相談
健康チェック・その他、必要な介護・個別機能訓練

【ご利用者の状況】(3/31現在)

(1)年齢構成

年 齢	男	女	計
50～59	1	0	1
60～69	2	0	2
70～79	4	8	12
80～89	8	28	36
90～	7	16	23
合 計	22	52	74
最高年齢	103	99	
最低年齢	59	73	
平均年齢	84.0	86.3	85.6

(2)介護度内訳 (3/31 現在) … 平均介護度：2.2

介護区分	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
人数	2	4	9	12	13	5	4

(3)新規利用受入れ状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	2	3	3	3	0	3	3	3	0	0	3	0	23

(4)終了理由

理由	入所	転居	入院	死亡	療養	他DS	自己都合	合計
人数	9	1	5	3	1	0	12	31

(5)月間利用状況 延べ人数

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
営業日数	26	26	26	27	26	26	26	26	27	17	24	26	303	25.2
稼働人数	20.0	19.1	18.7	19.1	19.3	18.3	17.9	18.3	19.4	17.5	17.4	16.7	221.7	18.4
月合計	521	498	488	518	504	477	467	476	526	299	418	436	5628	469
稼働率	66.7	63.8	62.5	63.9	64.6	61.1	59.8	61.0	64.9	58.6	58.6	55.9	740.8	61.7

(6)年間行事

	内 容
4 月	壁画作成・おやつ作り
5 月	こいのぼり作り・ホットケーキ
6 月	おやつ作り・ホットケーキ
7 月	七夕（短冊・飾り作り）・おやつ作り（いも餅）・すいか割り あじさいゼリー
8 月	おやつ作り（パフェ）・すいか割り・クリームソーダ
9 月	敬老会
10 月	ハロウィン仮装パーティー・白玉ぜんざい・犢橋高校ズーム
11 月	おやつ作り（焼き芋）・ホットケーキ
12 月	壁画ツリー作り・クリスマス会・餅つき（施設協同）・シイタケ狩り ズーム
1 月	壁画作成・
2 月	節分
3 月	ひな祭り
定期	毎 月：カレンダー作り・身体・握力測定 食 事：主菜セレクト(毎日)・行事料理 おやつ：ドリンクセレクト

おやつレク



皆で作りに上げた壁画



季節イベント



君津青葉高校ズーム交流会

犢橋高校ズーム交流会



【研 修】

	内 容
4月	介護技術の基本
5月	感染防止対策・求められる対応・対策
6月	食中毒対策と口腔ケアの重要性
7月	排泄アセスメント・ケアの視点 褥瘡予防・対策
8月	緊急対応・看取り時ケアに求められる視点・姿勢
9月	申し送りの確実性・迅速性 記録の在り方(ヒヤリハット・事故報告・ケア記録等)
10月	法人理念と介護支援 地域包括ケアの取り組み
11月	感染防止対策・求められる対応・対策(各種ウイルス・インフルエンザ等)
12月	安全対策・虐待防止・身体拘束廃止の取り組み 事例検討・ケアの在り方
1月	アクティビティの持つ力 レクリエーションの展開法
2月	高齢者虐待・身体拘束廃止研修 事例検討・ケアの在り方
3月	年間を振り返り研修内容選定

※教育研修室主催

【総 括】

令和3年度の実績は、1日平均18.4名、平均稼働率は、61.73%であった。

今年度は新型コロナウイルス感染対応の為、自席にて出来るレクリエーションや壁画などの制作を提供させていただきました。

コロナ化の中で、「DKエルダーシステム」という専用機器を使用し、3つの機能(運動・口腔・認知)を維持・向上できる様に、生活総合機能改善機器それら機能を改善できる様な取り組みを開始し継続していきます。

また、デイサービスではご利用者の思いを尊重したケアを行うために、職員間での情報共有の徹底や、お客様に合ったケア方法の見直しを行いました。

来年度はコロナ禍での事業所のあり方や対応方法を検討し、地域事業所との連携が取れる様に信頼関係を深めていく必要があります。

ご利用者様に気持ちよく利用していただくためにも、常に接遇を意識し続けご利用者様やご家族様、核事業所との信頼関係の構築に努めていきます。

3-8 居宅介護支援部門

1. 居宅介護支援事業

(1) 新規受け入れ

- ・千葉市あんしんケアセンター、病院及びご家族から直接の依頼あり。
- ・定期的にあんしんケアセンターへの訪問を実施。
- ・入院された利用者様の病院へ地域連携シートを提供し、地域連携室 MSW とコミュニケーションをとるよう心掛けている。

※2名体制時で報告 ※ () 内は1名当たりの担当数

目標実績件数 要介護 70 (35) 件/月 要支援 16 (8) 件/月

年度未延べ件数 要介護 774 件・要支援 187 件 (0.5 件換算) 稼働率 89.45%

実績無し 21 件(年間)

R4年3月現在 契約件 (要介護 68 件・要支援 11 件)

管理者：要介護 34 件・要支援 4 名/専任：要介護 34 件・要支援 7 件

- ・契約しているが、入院やサービス利用休止される方がおり、実績に反映できていない。
- ・体調の変化により区分変更される利用者様がいる為その都度対応している。
- ・実績にならないが、利用者様やご家族等の相談や対応を行っている。

(2) 週1回居宅会議を開催し、業務内容や申し送り事項、及び利用者情報等の共通理解や事例検討を行い

事業所として、問題解決を図るよう心掛けている。

法令遵守し安定した運営をすることを心掛けているが、業務点検や自主点検迄は定期的に行うことが

できていない。介護支援専門員 2 名で声を掛け合いながら確認していくよう注意していく。

2. 要介護認定調査委託事業

- (1) 現任研修については、今年度は新型コロナ感染対策の為、研修の開催がなかった
- (2) 千葉市各区、その他の自治体からの委託依頼を受けているが、緊急事態宣言後は感染拡大予防の観点から、同じ法人内特別養護老人ホームの認定調査のみ委託を受けた。

R4年3月末 10 件「千葉市稲毛区 9 件・中央区 1 件」

3. 事務処理を円滑に行うため業務の分散化を図る。効率よく業務を遂行できるよう努める。

契約書等の書類製本は介護支援専門員で時間がある時に行っている。

2名体制となりコロナ禍の中、PCR検査を毎週実施するなど独自の感染予防対策を実施しながら、

業務に当たってきた。また7月よりワイズマン対応のタブレットを使用することで、在宅勤務時等も、業務を遂行できるようになった。利用者対応の為の書類作成や入力業務の為に残業することが多い。

事務処理や業務が円滑に行うために見直し等相談していく。

4. 質の高いケアマネジメントの推進

介護保険改正にあたり、質の高いケアマネジメントを推進するために主任ケアマネジャーを管理者に登用する

ことを促進され、管理者が令和3年度、主任介護支援専門員研修を受講し終了証明書の交付を受けた。

令和4年度に、2名の介護支援専門員が更新研修を行う予定。

5. 職員の資質向上のための研修（関係機関との連携・地域とのつながり）

自身の日程調整を行い、できる限りオンライン研修や集まりに参加し、医療機関・あんしんケアセンター・サービス事業所・地域との連携を作り、深めていく努力をしています。

	研修内容
4月	圏域ケアマネ連絡会 (Zoom)
5月	圏域ケアマネ連絡会 (荻台地区担当 みどりの家)
6月	第1回稲毛区ケアマネ勉強会
7月	第2回千葉市介護支援専門員協議会研修/圏域ケアマネ連絡会 (Zoom) / 稲毛区ケアマネ事例検討会
8月	リスクマネジメント Web セミナー (Zoom)
9月	第1回千葉市あんしんケアセンター美浜区ケアマネ連絡会
10月	BCB作成 WEB セミナー/圏域ケアマネ連絡会 (Zoom) / 第1回「千葉市自立促進ケア会議」
11月	地域ケア研修会「高齢者虐待」 (Zoom) / 第2回稲毛区ケアマネ研修会
12月	第2回稲毛区多職種連携会議 (Zoom)
1月	圏域ケアマネ連絡会 (Zoom) 主任介護支援専門員研修 (1月～3月)
2月	
3月	千葉市高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修会/第2回稲毛区事例検討会 (Zoom 研修)

3-9 ボランティア部門

新型コロナウイルス感染予防の為中止

3-10 機能訓練部門

【 目標 】

1. 全入居者様・対象となる利用者様への機能訓練の実施（積極的な加算算定）
個人に合わせた訓練の提供
2. 多職種連携の強化
3. 地域へ貢献できる活動

【 事業報告 】

1. 全入居者様・対象となる利用者様への機能訓練の実施（積極的な加算算定）

職員体制が4月より変更となり、特養常勤：原澤・兼任常勤：黒沢・デイサービス常勤：柴田・）から（特養常勤：原澤・兼任常勤：黒沢・デイサービス常勤：椎葉）となった。特養の体制加算人数は、施設内88名（定員90名）の方の機能訓練を実施し、前年度に比べ、5名実施人数を増やすことができた。また、通所介護においては5月から介護保険の改正もあり加算内容に変更があったが、2人体制で機能訓練を行える事で見守りが強化でき安全面の向上、今までは1人しかいなかった為に出来なかったメニュー（数人での歩行訓練等）が行えるようになった。

短期入所に関しては、新型コロナウイルス感染対策もあり、前年度から個別機能訓練を中止しているため実施人数をあげることができなかった。

2. 多職種連携の強化
 - ・ 関連委員会や会議・カンファレンスへの参加
 - ・ 介助動作指導やポジショニング、シーティングの実施

- ・車イス修理・車椅子管理の実施

3. 地域へ貢献できる活動

コロナウイルス感染拡大防止の観点から、地域カフェは前年度4月より中止となった。

【 総 括 】

令和3年度は職員体制に変更があったが、椎葉職員が入職したことで加算算定を維持することができた。特養においては、相談員の協力の下、実施人数を定員近くまで増やすことができた。次年度も関連職種との連携を図り、現在の実施人数を維持できるように努めていく。また、前年度同様に機能訓練士全員が感染症拡大防止の意識を持ち、更なるサービス提供内容の向上を目標に訓練・活動を行っていく。

3 - 1 1 事務部門

【 目 標 】

事務部門は法人の理念・基本方針・中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

令和3年度目標

1. 離職防止のための職場環境の整備
2. 人材定着と雇用管理
3. 外国人技能実習生の受け入れ
4. 施設経費削減

【 施策・評価 】

令和3年度施策と実績

1. 離職防止のための職場環境の整備
 - 1) 個人の事情に配慮した支援を行った
介護休暇、育児休暇、ひとり親、新型コロナウイルスによる休業等への柔軟な対応
 - 2) 積極的な情報開示（見える化）
HPに処遇改善、行事、フードバンク、農福連携等も開示した
 - 3) 職員の多面工化による効率化
ケアワーカーと間接部門両方をカバーできるジェネラリストの育成に力を入れた

4) 技能の適切な評価

より明確な人事考課制度の導入と実施、評価を行った

5) 地域社会への積極的貢献

フードバンク、農福連携等で地域社会との関りを広げた

2. 人材定着と雇用管理

- 1) 同一労働同一賃金を採用し、賞与等で適切な評価を行った。
- 2) 日本語学校からの留学生を受け入れ、卒業後介護職への採用に繋がった。
- 3) 新卒、既卒獲得のための学校訪問を行うことができ、採用に繋がった

3. 外国人技能実習生の受け入れ

- 1) 新型コロナウイルスのため入国が遅れたが、令和4年5月頃には技能実習1号の4名を5月に受け入れる予定となっている
- 2) 千葉県留学生受け入れプログラムの受け入れ施設へ参加。令和4年5月以降に日本語学校に通いながら働く7名が4,5月に入国し3年後に介護福祉士を目指す。

4. 施設経費削減

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策で事業費、事務費ともに増大した。特に電気代の上昇が大きい
- 2) おむつ代はメーカーを変更したため前年より下げることができた

【主な経費】

給茶器	598,870 円
事務消耗品	638,670 円
印刷代	975,553 円
職員健康診断	761,430 円
夜勤食	311,983 円
社員食（昼食補助）	139,595 円

【 業務スケジュール 】

月	総務・人事	経理・他
4月		月次決算
5月		第1回理事会 第1回評議員会
6月		

7月	夏季賞与・処遇改善加算金支給 社会保険標準報酬月額基礎届 職員健康診断	労働保険料第一期納付 第2回理事会
8月		
9月	永年勤続表彰	
10月	非常勤職員契約更新	労働保険料第二期納付
11月	賞与人事考課（処遇改善加算金支給）	上期期決算報告
12月	冬季賞与	
1月	支払調書、法定調書提出	労働保険料第三期納付 第3回理事会
2月		事業計画作成
3月	処遇改善加算金支給・昇給人事考課 特定従事者健康診断	第4回理事会 第2回評議員会

3-12 教育研修部門

1. 教育研修業務実績

コロナ禍においても研修継続を取り組むため、オンライン研修を導入。
年間を通じて、年間研修計画に基づく施設内研修への取り組み。
コロナ感染予防対策ユニットフォローアップ、離職率低下への面談実施

（オンライン学習）月あたりの視聴時間：20分～40分

実施月	内容
4月	介護技術の基本
5月	感染防止対策・求められる対応・対策
6月	食中毒対策と口腔ケアの重要性
7月	排泄アセスメント・ケアの視点、褥瘡予防・対策
8月	看取り時ケアに求められる視点・姿勢、緊急時対応
9月	記録の在り方
10月	地域包括ケアの取り組み
11月	感染防止対策・求められる対応・対策
12月	安全対策・虐待防止・身体拘束廃止の取り組み、事例検討・ケアの在り方
1月	レクリエーション
2月	高齢者虐待・身体拘束廃止研修

コロナ禍により集合研修からオンライン研修にて実施したが、業務中の長時間視聴の困難

や一部の職員において、オンライン環境が整っていない、などの課題がある。次年度の研修方法については再考したい。

2. キャリアアップ 及び 方々との交流による業務への取り組み形成など

- (1) 園内にて、実務者研修、介護福祉士育成の対策講座の実施
- (2) 高校生（福祉コース）との交流会
- (3) 外部へ園内活動（フードバンク等）を通しての自己PR活動、就業支援活動
- (4) 介護スタッフ技能評価試験フォロー
- (5) 千葉県福祉人材センター 就職フェア参加

資格取得を支援するため、実務者研修開講や国家試対策の実施などを施設内で実施。

高校との交流会においては、職員の外部交流として新鮮な取り組みであり、日常業務への取り組みについてもよい効果を期待したい。また、外国人職員が増加による当該職員に対する言葉の学習や、職員への介護外国人材の制度理解（導入・支援・継続）も検討したい。

4 各委員会実績報告

4-1 安全対策委員会

【令和2年度 事業計画書に記載されている今年度の目標】

介護事故を起こさない為に、多職種協働において事故を予測し、組織的に事故予防に取り組む。事故再発防止の為に原因究明・再発防止の為に方策を検討・実施し、安心して介護サービスを受けられる環境を整備する。

利用者様の高齢化、重度化に伴い介護事故が利用者様の全身状態に与える影響が大きい事を認識し、全職員が知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来る様習得を図る。

【具体的な活動報告】

1. ヒヤリハットと事故の把握

ヒヤリハットと事故報告書の作成を手書きからワイズマンへと変更し、速やかに集計を行うことが出来た。またワイズマンを利用したことにより、他ユニットの報告書も速やかに閲覧することが出来るようになった。

2. スマートフォンアプリでの動画研修

集まって研修が出来ないことが多かったがアプリで手があいた時間に閲覧できるようになり効率がよくなった。

3. 分析、防止策の実施できる組織体制の整備

重大事故が発生した時は、職員や他職種からの聞き取り・相談を行った。

4. マニュアルの見直し

夜間帯でのオンコールについて医務・他職種と相談し見直しを行った。

【今後の活動について】

ヒヤリハットと事故の報告は委員会で行っていたが、再発防止の対策について強化していく。また、ヒヤリハットの重要性の確認と、事故防止について委員会として引き続き周知をしっかりと行っていく。

マニュアル（救急搬送・虐待疑いや重大事故発生時の委員会の招集について・事故や外傷の写真の範囲・身体拘束該当項目一覧）や帳票の提案・作成・見直しを行っていく。

専門職との事故予防の検討を行い、内容について周知する。福祉用具の活用なども含め、多職種と連携を強化し、安全で快適な生活を提供していく。

4 - 2 衛生委員会

【目標】

労働災害防止の取り組みは労使が一体となっていく必要があるため、衛生委員会において労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などの重要事項について十分な調査審議を行う。

- I. 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関する事。
- II. 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関する事。
- III. 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に関する事。
- IV. 前三号に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康保持増進に関する重要事項。
- V. 入居者健康診断（年1回）、職員健康診断（年2回）、ストレスチェック（年1回）、職場巡視（月1回）

【施策・評価】

職場の健康障害防止・健康保持増進・労働災害防止のための活動を行うため以下の内容で年間計画をたてる。

I. 腰痛対策についての検討

1. 腰痛予防・腰痛緩和の取り組みとして、毎日2回（午前・午後）ラジオ体操の放送を流しているが、なかなか体操実施にはつながっていない状況にある。
次年度では、職員の腰痛・腰痛緩和の取り組みとして、職員のラジオ体操実施が浸透するように、働きかけをしていく。

II. 職員健康診断の実施

1. 今年度8月に全職員対象、3月に夜勤従事者対象の健康診断を実施。
健康診断後の健康相談について産業医への相談ができることをメールで配信したが、健康相談の希望はなかった。今後も健康相談ができる旨のメール配信を継続していく。12月に健康診断に伴う保健指導があり、対象者（5名）面談を実施。
次回の面談は令和4年4月に面談予定である。

III. 巡視チェックリストの提出・検討

1. 巡視チェックリストは第1週には各部署、提出しており、職場巡視の重要性を認識していた結果だったといえる。今後もより良い職場環境作り実施のため、巡視チェックリスト提出の徹底を図っていく。

IV. ストレスチェックの実施

1. ストレスチェックは12月に実施。対象職員79名中、78名提出（回収率99%）という結果であった。高ストレス者がいたが、産業医への健康相談希望者はいなかった。次年度でもストレスチェックとは何か・なぜ実施するのかを伝達していき、積極的な参加を促していく。心身共に障害なく健康に勤務できる職場環境作りに取り組んでいく。

V. 働きやすい職場環境作り

1. 6月より職員のコロナワクチン接種が開始となり、9月には2回目接種も終了となった。しかし、今年度は職員や職員家族に感染者が発生。感染拡大にはいたらなかったが、職場内が感染対応となる期間があり、急な勤務変更や、休憩場所の変更等、職員の業務負担が増えることが多々みられた。また、労災事故も4件発生した。次年度は働きやすい職場環境作り・より良い職場環境作りに力をいれて取り組むよう努めていく。

4 - 3 褥瘡対策委員会

【 目 標 】

適切なケアにより、褥瘡が発生しないもしくは発生率が低い状態とし、QOL 向上に努めることにより、心身ともに穏やかな生活を送られるよう支援する。

【施策・実施状況】

- 1、毎月1回委員会を開催し各部署からの現状報告、意見交換、問題改善に取り組んだ。
- 2、多職種連携により、褥瘡の早期発見に努めていても発生した場合はすみやかな早期改善を目指すための情報共有を行った。
- 3、褥瘡予防を目指した食事・排泄のケア、体位変換技術等を習得するために施設内研修を行う。
7月に開催。テーマ「排泄アセスメント ケアの視点 褥瘡予防・対策」
コロナ禍もあり、オンライン研修を取り入れ、各自受講するようにした。
- 4、介護保険改正に伴い、入所時及び1回/3か月ごと入居者別にモニタリング指標を用いた評価を行い、ケア計画書の作成と見直しを行う呼びかけと実施確認を行った。（4・7・10・1月実施）

5、年間褥瘡処置発生件数

1) 褥瘡発生部位

臀部	8件	仙骨部	4件
大腿部	1件	下腿部	1件
大転子部	2件	足趾	2件

2) 皮膚トラブルを繰り返す部位

仙骨部 2件

3) 対応策

①毎日の医務処置と観察

②原因の追求と対応策の提案

③おむつ内環境を整える等の清潔保持。

褥瘡・傷がある人には洗浄液を使用しないで、微温湯のみで陰部洗浄をすることを徹底する。

④皮膚の蒸れを軽減し皮膚トラブルの予防をするため、ラバーシートをはずすことを推奨。

⑤適宜、褥瘡予防用具の使用を推奨。

マキシフロートマット、スライディンググローブの使用。

⑥理学療法士より除圧、摩擦の予防、具体的な体位交換、ポジショニング法の指導を受ける。

⑦栄養面のサポート

毎月の体重測定から BMI を算出し低栄養状態の入居者様をピックアップし、ハイリスク予備軍の確認を実施。また低栄養状態の入居者様の体重測定を月2回で実施し栄養補助食品の提案、検討を行う。

⑧マットの見直しを行い、前年よりエアーマットを増やし、褥瘡の有無や低栄養の方に優先的に導入。

以上①～⑧の対応策により褥瘡予防、皮膚状態の増悪防止ができた。一方で同じ部位に皮膚トラブルが再発するケースもあった。

【考察】

表皮剥離や褥瘡等の皮膚トラブルが発生した時、関連部署との連携により情報共有、早期発見により対応ができた。今後も正しい姿勢、体位交換、清潔保持、栄養状態の観察、体調管理に努め褥瘡予防に施設全体で取り組むことを目指した呼びかけを続けていく。

引き続き褥瘡予防・対応に関する知識を得ていくために、オンライン研修の受講を呼び掛けていく。

発生した場合は適切な褥瘡ケアを各部署と連携しチームケアとして取り組むこととする。

4-4 防災委員会

構成メンバー

施設長	勝山	課長補佐	鬼塚	教育研修	高岡	委員長	横尾
1F	並木	2F	細川	3F	長部・熊谷	相談・支援	高尾
栄養	尾坂	事務課	福田	デｲｯﾋﾞｽ	田岡	機能訓練	黒澤
居宅	宮道	主任	佐々木	ﾊﾞｺﾘｰﾉ	前原・白幡	医務	稲原

【令和3年度活動】月1回 第3火曜日 15:00～開催

- ・防災時における、水、食料、それらに伴う器具、設備品の管理
- ・防災ルート・避難経路・施設周辺の環境整備の確認
- ・避難訓練の実施 災害時スムーズに避難誘導を行えるように職員へ情報の周知への取り組み

令和3年度 活動内容

4月	備品確認・集計 避難経路確認 施設周辺の環境整備 自主点検簿作成
5月	避難経路図の確認・配置 避難所の確認 停電対策の検討 自主点検簿作成
6月	災害時の地域貢献について検討 防災倉庫の備品確認 自主点検簿作成
7月	消防（消火・避難・通報）訓練実施 防災倉庫管理 備蓄品管理 自主点検簿作成
8月	水害対策を検討 災害時に利用できる資源について確認 自主点検簿作成
9月	備蓄品の確保と保管と検討 停電時の対応を検討 非常食のシミュレーション 自主点検簿作成
10月	避難訓練計画 防災倉庫管理 地震対策について検討・連絡先確認 自主点検簿作成
11月	消防（日中想定 消火・避難・通報）訓練実施 自主点検簿作成
12月	避難訓練の評価・改善点・考察 自主点検簿作成
1月	災害時の対応（日中・夜間） 役割について確認 防災倉庫管理 自主点検簿作成
2月	防災計画・防火管理者変更 自主点検簿作成
3月	BCP（業務継続計画）についての理解 自主点検簿作成

- ・訓練ごとに委員会にて反省行い、改善点、見直しを会議
- ・台風や震災等、災害対策の検討
- ・その他、防災等に関する事項の検討

今年度の介護保険改正で業務継続計画について義務化の方向で進んでいることが決まりました。地域の資源としての役割だけでなく地域を資源としてどう協力し合うかを考えることが必要だと感じています。災害対策・救助・復旧を念頭に迅速に安全を確保し通常業務を再開することで施設

の役割が果たせるように取り組んで行きたいと思えます。

災害に対する事前の備え・定期的な訓練・備蓄品管理・連携について深く検討して行きます。

利用者の安全確保と職員の防災意識の向上を目指します。

4－5 食中毒蔓延防止・感染対策委員会

R3 年度感染委員会事業報告

- ・ご利用者からのコロナウイルス発生件数 0 件
- ・発熱時抗原検査や病院受診にて対応できた
- ・職員や職員家族間でのコロナウイルス発生は数件あったがクラスターにはならず、留める事ができた。
- ・職員対象に日本財団無料 PCR 検査を実施することができた。
- ・R4 4 月で PCR 検査が終了する為今後の対応の検討が必要である。
- ・年度初めに「コロナ感染対応基準」にて発生時の対応を統一した。その後、状況により変更する。
- ・疥癬繰り返し発生あり、マニュアルの改正する。

【 目 標 】

感染症・食中毒のおける蔓延防止委員会は施設全体の基本方針・目標に合致する。社会福祉法人初穂会の理念、基本方針、中長期計画・重点目標を達成するために目標を以下の通り定める。

- (1) 新型コロナウイルス感染症は、社会福祉施設においても入所者や職員における感染事例が報告されている。高齢者において重症化するリスクが高いとされており、入所者において疑われる患者を認めた段階から、適切な初期対応を行うことで、施設内での（感染症集団発生）を防止することが極めて重要となる、職員の健康管理、面会の制限、納入業者による物品の搬入などを徹底する。

1. 利用者様の高齢化・重度化に伴い、感染症・食中毒が利用者様の全身状態に与える影響が大きいことを認識し、全職員が正しい知識・技術を研鑽し適切で速やかな対応が出来るよう研修を通じ習得を図る。

新たに、感染対応ガイドラインの作成を行う。

2. 利用者様が安心して生活出来る様迅速に対応出来る様環境を整える。

3. 職員への感染対応教育の徹底。

4.

【 具体的方策 】

1. 感染症に対する抵抗力の弱い高齢者が集団で生活する場にて感染が広がりやすいことを認識し可能な限りの予防対策、発生時には感染拡大防止のため迅速な対応を図る。

- 1) 感染対応シュミレーションの実施 職員への教育
- 2) 入居者の感染症確認
- 3) 入居者の日頃の健康状態の観察
- 4) 職員の健康管理の実施
- 5) ワクチンの予防接種
- 6) 感染症が発生した場合対策の運用実施を担う
- 7) インフルエンザ発症時の施設対応要綱に沿った対応
- 8) 感染症発生時の対応状況の共有

記録・報告にて蔓延予防と次回の感染予防に対応とする。

- 10) 感染症情報の提供（適宜）

公的機関からの情報収集を行い情報発信する。

- 11) 必要に応じてマニュアルの見直し

感染症・食中毒、発生状況・新たな情報に応じて見直しを行う。

- 12) 感染症等発生時期前に注意喚起を促す提示を行う。

【 委 員 】

2. 感染拡大を防止する観点より正しい知識の習得及び啓発を行い衛生管理の励行を推進する。

- 1) 職員研修

① オンライン研修の活用、ガウンテクニック講習

- 2) 定期研修

① 感染症及び食中毒の予防蔓延防止のための研修会開催
(2回以上/年)

i 主たる感染症（コロナウイルス、ノロウイルス イン
フルエンザ、疥癬ダニ）に関する研修

ii 食中毒に関する研修

iii 手洗い ガウンテクニック等の実技研修

	委員会	活動内容
4月	委員会開催	コロナウイルス対策の見直し、呼びかけ 物品の確認、体制の見直し
5月		コロナウイルス対策の見直し、呼びかけ 物品の確認
6月		食中毒対策の実施（手洗いについて施設内研修）
7月	委員会開催	コロナウイルス対策の見直し、呼びかけ
8月		疥癬対策の見直し、呼びかけ 物品の確認
9月		疥癬対策の見直し、呼びかけ 物品の確認
10月	委員会開催	コロナウイルス対策の見直し、呼びかけ
11月		感染予防対策（加湿器設置）コロナウイルス ノロ・インフルエンザについて施設内研修 ガウンテクニック研修
12月	保健所研修参加	感染予防対策の実施・次期事業計画作成
1月	委員会開催	感染予防対策の実施 物品の確認
2月		感染予防対策の実施 物品の確認
3月		総括

4 - 6 広報行事委員会

【目 標】

- I.施設行事を開催し、入居者、ご家族、地域の方との交流を深め共存していく
- II.季刊誌を発行し、ご家族、地域の方たちへの情報提供

【具体的な活動】

- コロナ、その他各階感染対応が続き、職員同士の集まりも極力避けるということから委員会開催中止（4月、5月、6月、7月）
- 縁日 昨年同様、コロナ渦のため、中止。
- 敬老会 9/21 各ユニットごとにて実施。全体集合はなし。
各ユニット、歳祝いの方へ施設長より表彰状の授与。利用者全員にコメント入りフェイスタオル、祝どら焼き、ケーキのプレゼント。昼食はお祝ご膳。
各ユニット、デイサービスヘアレンジフラワー贈呈。
（昨年度の申し送りより各ユニットへの花の数を増やしたいとのことで、単価を下げ、花の数を増やした。）
事前にショート、デイサービスの利用者様の協力を得て、花飾りを作り、祝敬老会のボードを飾った。

お祝い用のちゃんちゃんこ(黄色、紫色2枚)購入し、祝い者に着てもらい、記念撮影を行った。
例年通り、職員表彰も行った。

4-7 拘束廃止・虐待防止委員会

【令和3年度）事業計画書に記載されている今年度の目標】

拘束廃止を目標とすることで、日常業務での取り組みやユニット内での連携において各職員が必要な情報を共有し、施設全体で拘束を行わないサービスを提供する。

拘束廃止を実現していこうとする取り組みにおいて、その過程の中で生じた課題を受け止め、それらをケアの質の向上のきっかけとし、拘束廃止を最終目標とせず、よりよいケアの実現に向けて取り組んでいく。

【具体的な活動報告】

- ・安全対策委員会と合同で会議を開催し（会議時間は1時間）、連携をしながら意見交換、対策協議などを行った。
- ・身体拘束を行う可能性のある入居者に関する現状の把握と、問題に対する対応策の意見交換を毎月行った。

【センサーマット使用】

今年度、身体拘束同意書を通しセンサーマット使用した入居者が2名いた。

① I・M様 9月21日～使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。ベッドから起き上がりトイレへ行こうとする
が転倒・転落リスク高い。

方法：センサーマットをベッド脇に置く／24時間使用

② M・Y様 3月19日入所～使用開始・継続中

理由：ナースコール理解なし。ベッドから起き上がりトイレへ行こうとする
が転倒・転落リスク高い。

方法：センサーマットをベッド脇に置く／24時間

【今後の活動について】

今後も引き続き「生命又は身体を保護するため緊急やむを得ない場合は身体拘束が認められているが、当施設では身体拘束を廃止していく姿勢を堅持することを重要とする」という目標を第一として考え、入居者が安心・安全に暮らすことができる環境づくりと生活の質の向上を図っていく。

拘束廃止・高齢者虐待にかかわる介護保険法を遵守し、減算対象とならないようにする。

「拘束廃止」をゴールとせず、個々の課題を真摯に受け止めよりよいケアの実現に向けて行くことを目指していく。

4－8 排泄支援委員会

【目標】

排泄は非常にプライベートな行為であるため、誰かの手を借りることに抵抗がある。

また、失禁などの失敗をしたときにネガティブな状態に陥ったりします。

自尊心を傷つけずに生活機能の維持を図る支援を目標に、多職種連携による日常生活動作能力（ADL）の維持・改善に努める。

【施策・実施状況】

1. 多職種協働による支援計画を作成し、日常生活動作能力の維持、改善に努める。

1) 今年度も排泄支援計画書の作成はしなかった。

加算も見送りとなっている。

2) コロナ禍にあり、講習会の開催は出来なかった。メーカーに協力を得てオンライン開催をできれば良かったが、開催までに至らなかった。

排泄表の変更等、各ユニットにお願いし実施できた。

3) 入居者にあった排尿・排便時間のルーチン化については、各ユニットにおいてできているととらえ、排泄委員会としては関わらなかった。

2. 予防発想のスキンケアに努める。

1) 洗淨液を導入し、各ユニットで定着出来てきている。

【今後の活動について】

今期は排泄と皮膚に関する職員の意識改革に重点をおき、褥瘡や、スキンケア、IDAという部分で褥瘡委員会と協働したいという考えから、排泄支援委員会と褥瘡対策委員会を一つにまとめて頂くことになった。

オムツメーカーの支援も受けながら、排泄・褥瘡のメカニズムや根拠の再学習の機会を設け、職員の意識の向上に努める。

4-9 入浴委員会

1. 教育研修室業務実績

コロナ禍においても研修継続に取り組むため、オンライン研修を導入。
年間を通じて、年間研修計画に基づく施設内研修への取り組み。
コロナ感染予防対策ユニットフォローアップ、離職率低下への面談実施

(オンライン学習) 月あたりの視聴時間：20分～40分

実施月	内容
4月	介護技術の基本
5月	感染防止対策・求められる対応・対策
6月	食中毒対策と口腔ケアの重要性
7月	排泄アセスメント・ケアの視点、褥瘡予防・対策
8月	看取り時ケアに求められる視点・姿勢、緊急時対応
9月	記録の在り方
10月	地域包括ケアの取り組み
11月	感染防止対策・求められる対応・対策
12月	安全対策・虐待防止・身体拘束廃止の取り組み、事例検討・ケアの在り方
1月	レクリエーション
2月	高齢者虐待・身体拘束廃止研修

コロナ禍により集合研修からオンライン研修にて実施したが、業務中の長時間視聴の困難や一部の職員において、オンライン環境が整っていない、などの課題がある。次年度の研修方法については再考したい。

2. キャリアアップ 及び 方々との交流による業務への取り組み形成など

- (1) 園内にて、実務者研修、介護福祉士育成の対策講座の実施
- (2) 高校生（福祉コース）との交流会
- (3) 外部へ園内活動（フードバンク等）を通しての自己PR活動、就業支援活動
- (4) 介護スタッフ技能評価試験フォロー
- (5) 千葉県福祉人材センター 就職フェア参加

資格取得を支援するため、実務者研修開講や国家試対策の実施などを施設内で実施。
高校との交流会においては、職員の外部交流として新鮮な取り組みであり、日常業務への取り組みについてもよい効果を期待したい。また、外国人職員が増加による当該職員に対する言葉の学習や、職員への介護外国人材の制度理解（導入・支援・継続）も検討したい。

5 地域福祉部門

買い物支援、地域カフェ、こども食堂、こひつじ市場は新型コロナウイルス感染対応のため中止させていただくことになる。

フードバンク活動企業、地元農家、こひつじ農園より寄付年間36トン
睦沢町社会福祉協議会、袖ヶ浦市社会福祉協議会との（フードバンク物品相互融通）
厚生労働省ひとり親家庭子ども食堂支援事業実施、3月20日、27日
今後、千葉県全体でのフードバンク活動を目指す

萩台天台あざみ自治会フードドライブ開始（毎月最終日曜日）





(児童養護施設響きの杜様)

新型コロナウイルス感染対応のためイベントが中止となっていましたが地域からの要請であやめ台団地祭りに出店し、交流がはかれた



子ども食堂が開催できないため、他の子ども食堂に応援に行って、フードバンク提供しております。児童養護施設4か所お渡ししております



(八街市ハーベストミュージックジャパン様)



6 ほっとスペース 稲毛ペコリーノ

1. 介護人材の輩出と育成

実施状況

講座名	クラス	受講生	合計(延べ人数)
介護職員初任者研修	7	97	379
介護職員実務者研修	13	124	
福祉用具専門相談員	4	39	
同行援護研修(基本・応用)	6	54	
レクリエーション介護士2級講座	2	17	
介護福祉士試験対策(対策・直前対策・模擬)	4	48	

※その他の事業

- ・千葉県委託事業：介護に関する入門的研修
「期待しています！」シニア人材事業
母子家庭の母等に対する就業支援講習会
- ・千葉市委託事業：母子家庭等就業支援介護職員初任者研修講習
- ・船橋市委託事業：介護と福祉の合同就職説明会事前ガイダンス
- ・白井市委託事業：介護と福祉の就職フェア サポート及び介護職員初任者研修
- ・千葉市委託事業：介護職員の交流会運営事業
- ・講話や説明会の受託と参加：介護労働安定センター千葉、ハローワークちば、訓練校
- ・若者サポートステーションへの職業人講話の受託
- ・高校での初任者研修講師受託(君津青葉高校、大原高校)
- ・高校との交流会(犢橋高校、君津青葉高校)
- ・千葉市地域日本教育推進会議参加依頼



2. 振り返り

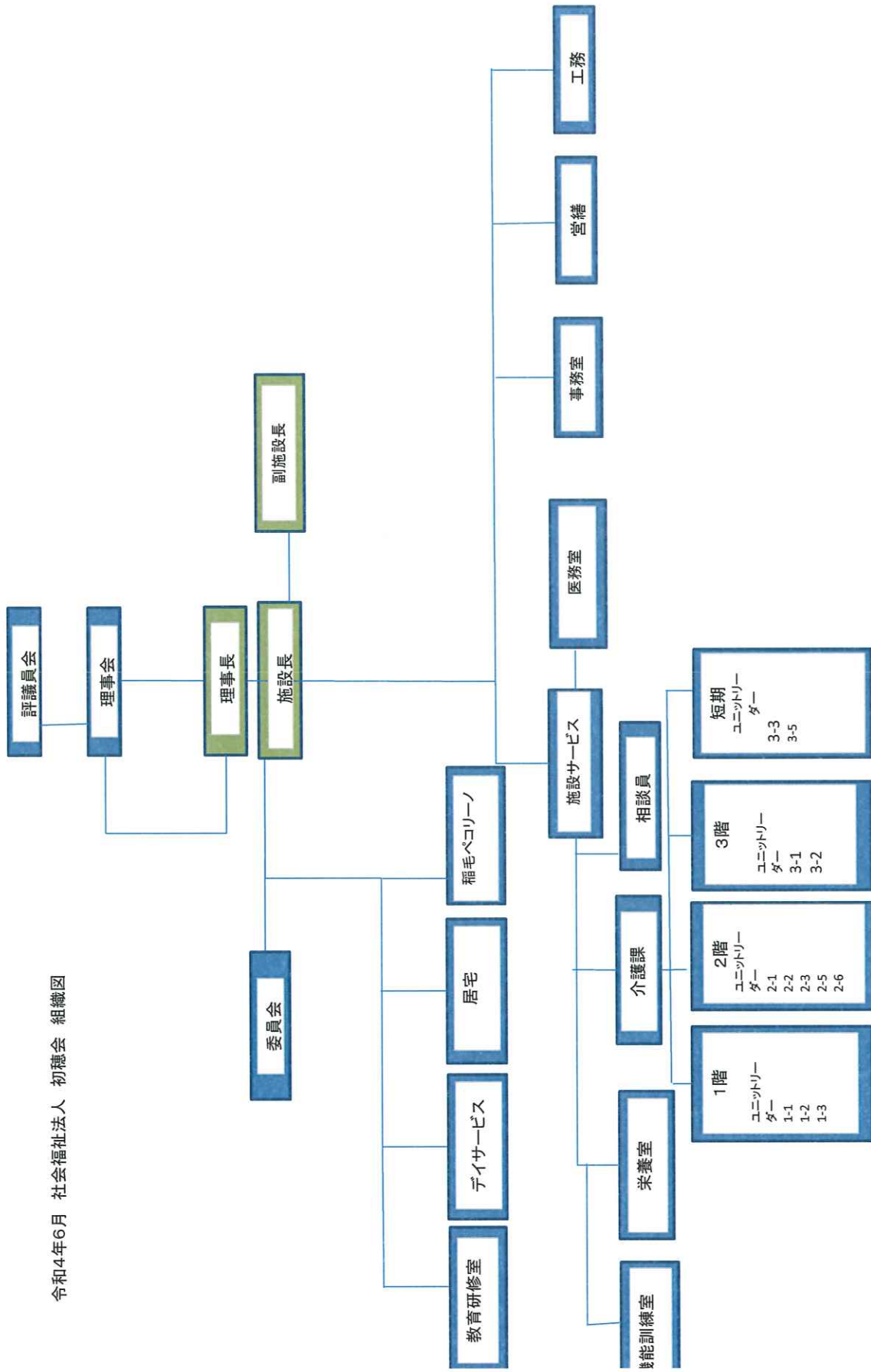
昨年に続き、コロナ禍であることからクラス定員を減少させての実施となったが、各施設への営業と修了生からの紹介などにより、初任者研修と実務者研修の受講者はそれぞれ、昨対 135%、120%の受講生増となった。(予算 2780 万円/実績 3260 万円)

また、外国人の受講も積極的に進めており、県内では初の外国人クラスも設けており、一部の講座については、オンラインでも実施している。

尚、県や市の委託事業に対する企画提案(プロポーザルなど)により、7件を受託。

生活困窮者支援団体・自立支援センターや寡婦会等との連携による講座受講もあり、資格と就労支援を踏まえた事業連携も検討中である。

令和4年6月 社会福祉法人 初穂会 組織図





中田職員作 石庭

「和協の庭」

社会福祉法人初穂会 事業報告

編集：稲毛こひつじ園

令和4年 5月 日発行

